



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡してください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

**▲注意** …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

**▲注意**

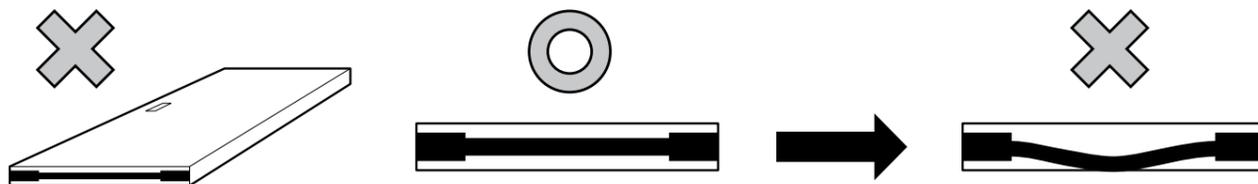
●本体と鴨居へのかかりを5mm以上確保してください。かかりが少ない場合は、建付け調整を必ず行ってください。本体が枠から外れてケガをする原因になります。

■取付け上のお願い

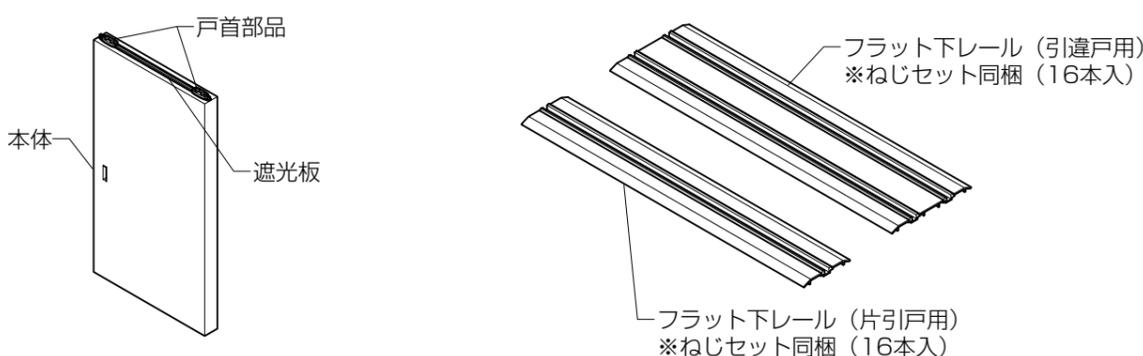
- 本製品は、木質の既存枠に取付けられます。
- 既存の鴨居の溝形状が四七溝の場合に取付けられます。
- 本製品のねじ締付け時には、電動ドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 本製品の取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、ゆがみなどの原因となります。
- 本体は落下させたり、立てかけるときに衝撃を与えないでください。戸車部の樹脂部品や戸首部品がキズ付き、開閉に支障をきたす原因になります。
- 運搬・加工の際は、キズ付けないように取扱ってください。又、水・直射日光の当たる場所に、開梱状態で置かないでください。ソリ・ねじれの原因になります。
- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買求め店までご連絡ください。(取付け後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。)
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」又はノンホルムタイプを使用してください。
- 各部材のガイド穴にゴミなどが入らないようにしてください。
- 取付け時の建具養生などは、ダンボール・ミラーマットなどを使用し、粘着力の強いテープ(ガムテープ、養生テープなど)を長い時間建具表面に直張りしないでください。テープを剥がす際、表面シートを傷めたり、またテープそのものの粘着剤が表面に付着したまま残ることがあります。
- 既存の敷居は、段差やすき間がないように仕上げしてからフラット下レールを固定してください。
- フラット下レールの取付けねじを締め過ぎないでください。レールが変形し、本体開閉不具合の原因となります。
- パッキン材を取付ける際は、接着面のゴミ・サビ・油などの汚れを取り除き、よく乾かしてから取付けてください。
- 戸首の調整後は、戸首部品がガタつかないように締め直してください。

■本体保管上のお願い

- 本体のソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。
  - ・直射日光の当たる場所
  - ・昼夜などで温度差の激しい場所
  - ・湿気の多い場所
- 本体を寝かせて保管することはやめてください。遮光板がゆがみ、明り漏れの原因となります。



■部品・部材の名称



■引戸本体明細

|         |     |
|---------|-----|
| 引戸本体    | 1 体 |
| パッキン    | 2 本 |
| 取付け説明書  | 1 枚 |
| 取扱い説明書  | 1 枚 |
| 施工上のお願い | 1 枚 |

■錠受けセット明細

|                       |     |
|-----------------------|-----|
| 錠受け(小ねじ付)             | 1 個 |
| 取付け用皿タッピンねじφ 3.5 × 50 | 2 本 |

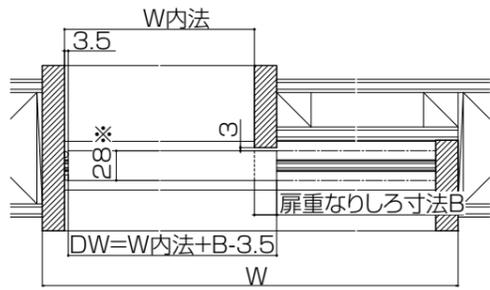
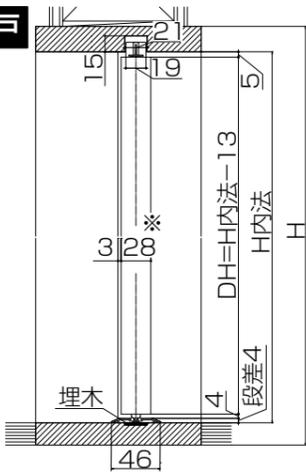
■引戸錠セット明細

|                  |     |
|------------------|-----|
| サムターン本体          | 1 個 |
| 取付け用皿小ねじ M3 × 10 | 2 本 |

本製品はリノバカタログのチェックシートに基づき測定していただいた内容で製作しております。既存枠の狂い、本体寸法、特別仕様内容をご確認のうえ、以下の手順に沿って取付けを行ってください。チェックシートの内容と異なると、後でトラブルの原因になるおそれがあります。

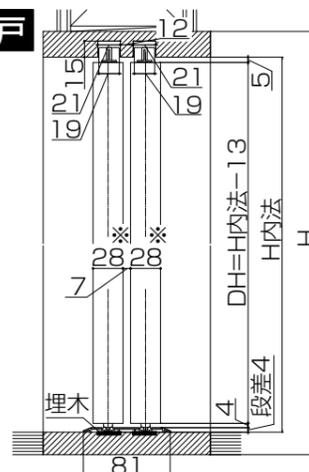
参考納まり

片引戸



※戸襖引戸の場合は、戸厚30mm

引違戸



※戸襖引戸の場合は、戸厚30mm

取付け手順

1 既存引戸本体の取外し

引戸本体を取外します。

【錠付き本体を使用する場合】

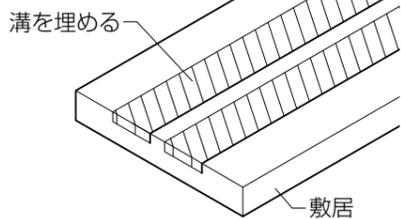
既存枠に取付いている既存錠受けを取外します。

2 カバー材の取付け

カバー材使用の場合は、カバー材同梱の取付け説明書にしたがい、カバー材の取付けを行います。

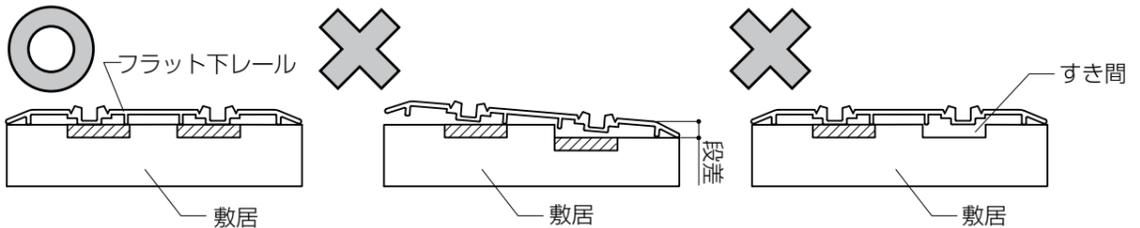
3 フラット下レールの取付け

① 既存の敷居溝を埋木(現場手配)で処理をします。



お願い

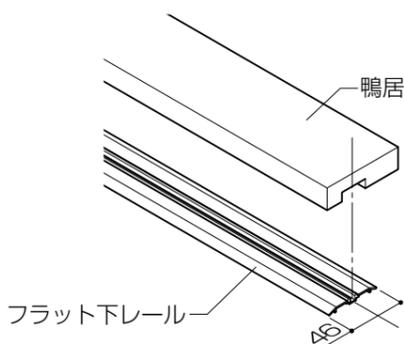
※敷居は段差やすき間がないように仕上げしてからフラット下レールを固定してください。



② 下げ振りなどを使い、鴨居と垂直になるように位置出しをします。

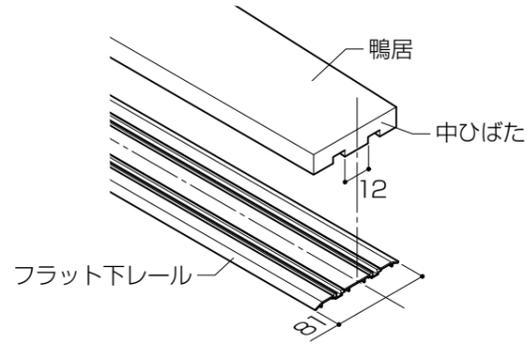
【片引戸の場合】

鴨居溝のセンターとフラット下レールのレールセンターを合わせます。



【引違戸の場合】

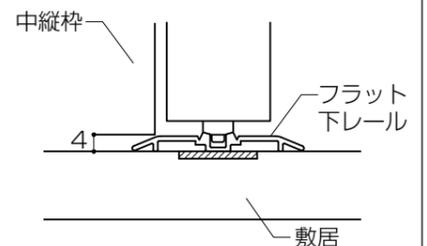
鴨居の中ひばたのセンターとフラット下レールのセンターを合わせます。



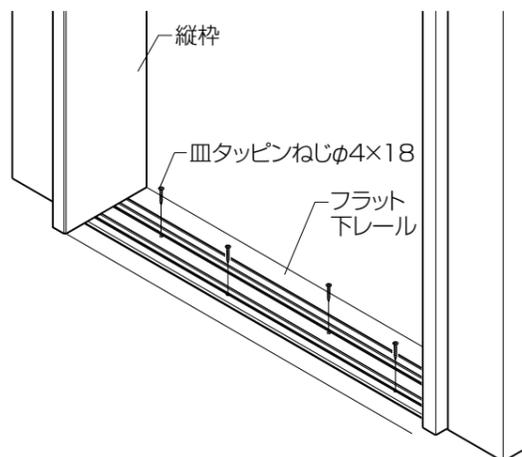
③ フラット下レールを仮置きしてください。  
(※フラット下レールは、枠内のりより両端約0.5mmずつチリを設けています。)

【片引戸の場合】

フラット下レールと中縦枠が干渉する場合は、中縦枠下部を切欠き、フラット下レールを納めてください。  
※切欠き寸法約4mm

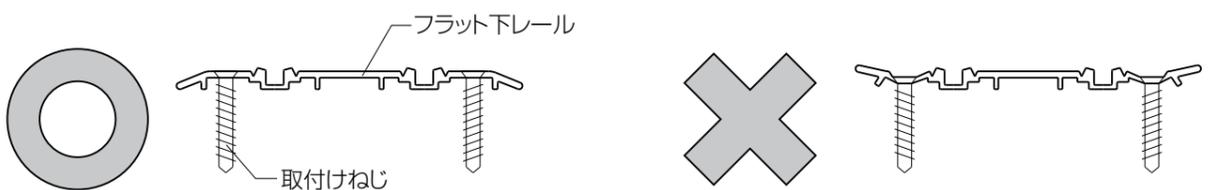


④ フラット下レールを同梱のねじ(皿タッピンφ4×18)で固定します。



お願い

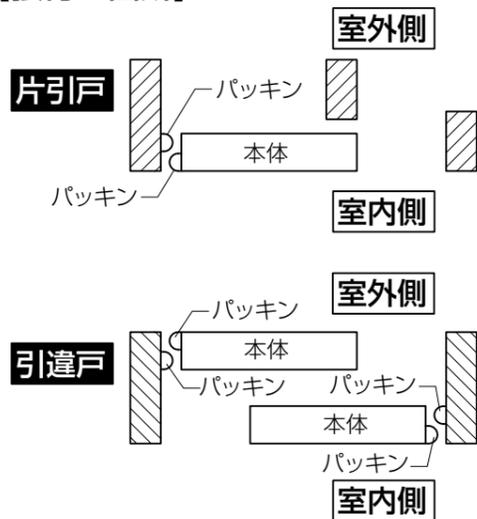
※取付けねじを締め過ぎないでください。  
フラット下レールが変形し、本体開閉不具合の原因となります。



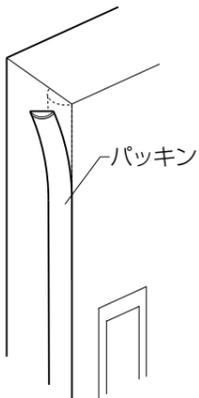
#### 4 パッキン材の取付け

本体同梱の部品セットに入っているパッキン材を使用します。  
パッキン裏面のリケイ紙をはがし、張付けてください。

##### 【張付け箇所】



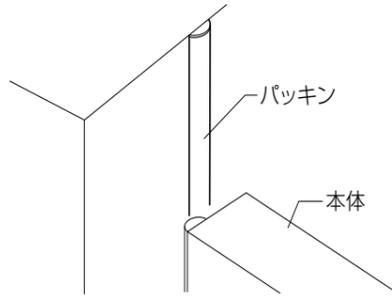
##### ●本体側



##### ●枠側

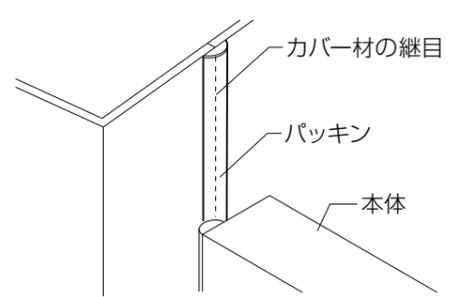
カバー材なしの場合

本体側と交互になるよう  
合わせて張付けます。



カバー材ありの場合

カバー材の継目の位置に張付けます。  
本体側と交互になるよう合わせて張付けます。



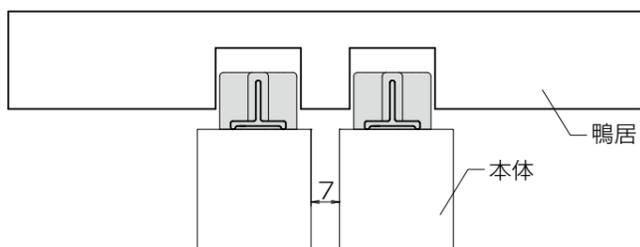
お願い

※パッキン材を取付ける際は、接着面のゴミ・サビ・油などの汚れを取除き、よく乾かしてから取付けてください。

#### 5 本体の吊込み・建付け調整

本体を吊込み、建付け調整をします。

##### 【引違戸の場合】



下記の建付け調整を行い、本体間にクリアランスを7mm確保してください。  
7mm以下の場合、額付きデザイン本体同士が干渉し、開閉に支障をきたす原因になります。

##### ●戸車部品での調整

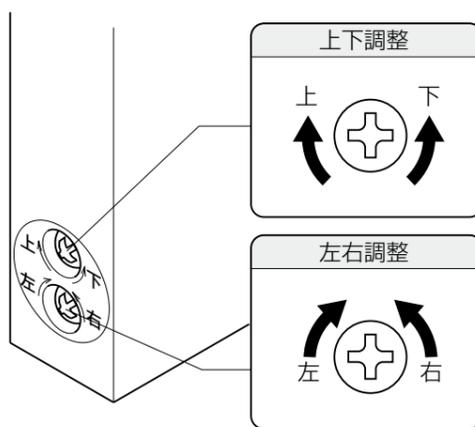
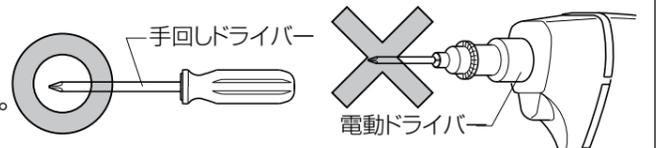
##### 【上下調整（調整幅+4mm、-2mm）】

- ※鴨居に5mm以上かかるように調整してください。
- ①本体両下端の上下調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。
- ②調整後、本体の鴨居へのかかりが5mm以上あるか、確認してください。

##### 【左右調整（調整幅±2mm）】

- 本体両下端の左右調整ねじを左に回すと本体が右に動き、右に回すと左に動きます。
- ※左右調整をする場合は、本体同士がぶつからないようご注意ください。

- ※建付け調整は必ず、手回しドライバーを使用してください。
- ※電動ドライバーは、使用しないでください。ねじ頭が壊れるおそれがあります。



#### ▲注意

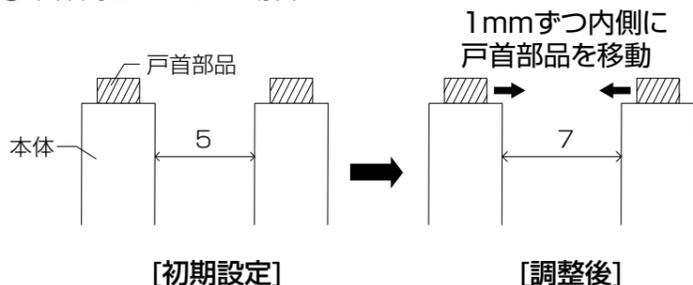
- 本体と鴨居へのかかりを5mm以上確保してください。かかりが少ない場合は、本ページの建付け調整を必ず行ってください。本体が枠から外れてケガをする原因になります。

##### ●戸首部品での調整

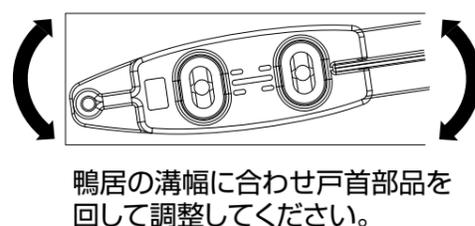
取付けねじをゆるめて、戸首部品を動かし調整してください。  
調整後、本体を再度吊込み確認してください。

##### 【調整方法】

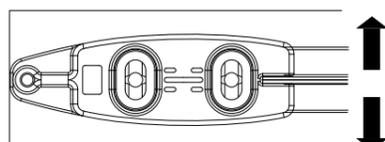
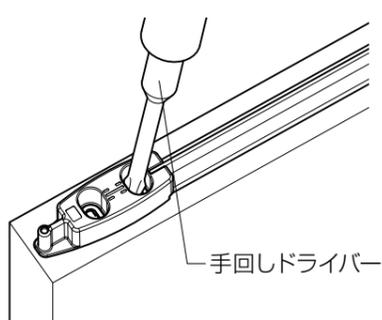
①本体同士があたる場合



②本体がガタつく場合



鴨居の溝幅に合わせて戸首部品を回して調整してください。



戸首部品を前後にずらして、本体間（上部）にクリアランスを7mm確保してください。

お願い

※戸首の調整後は、戸首部品がぐらつかないように締め直してください。

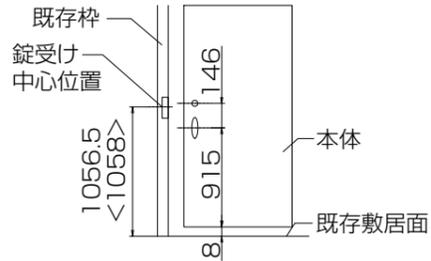
## 6 片引戸錠付きの加工手順

### ■引戸錠受けと本体引手・錠の位置関係について

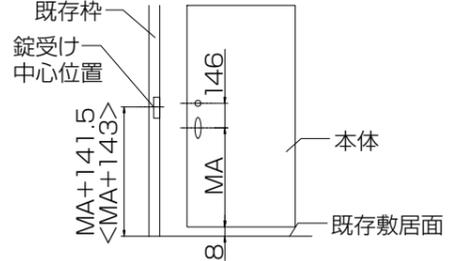
標準加工位置の場合は、図1となります。  
位置変更特注をした場合は、図2となります。  
※引手中心位置(MA)から、錠受け中心位置を算出してください。  
※錠受け中心位置はフラット下レール取付け前の寸法です。

それぞれの場合の錠受け中心位置を下記の加工手順にあてはめ、加工をしてください。

標準加工位置(図1)



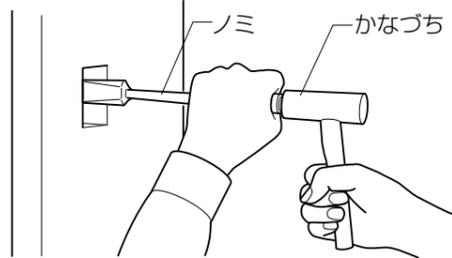
位置変更特注(図2)



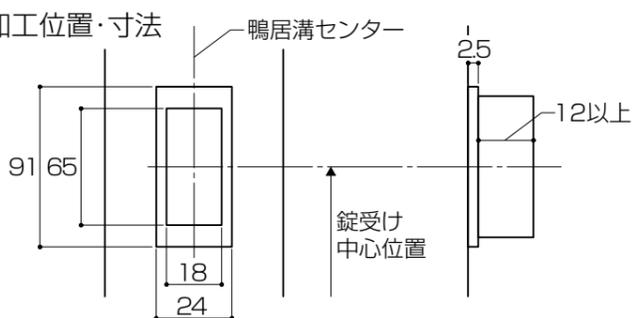
※< >寸法は敷居にカバー材ありの場合を示します。

### 【カバー材を使用しない場合】

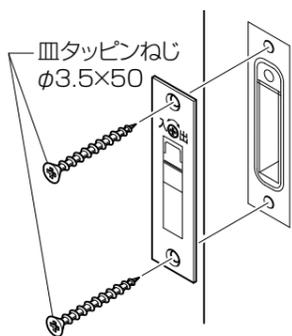
①既存枠に錠受け加工をします。



●加工位置・寸法



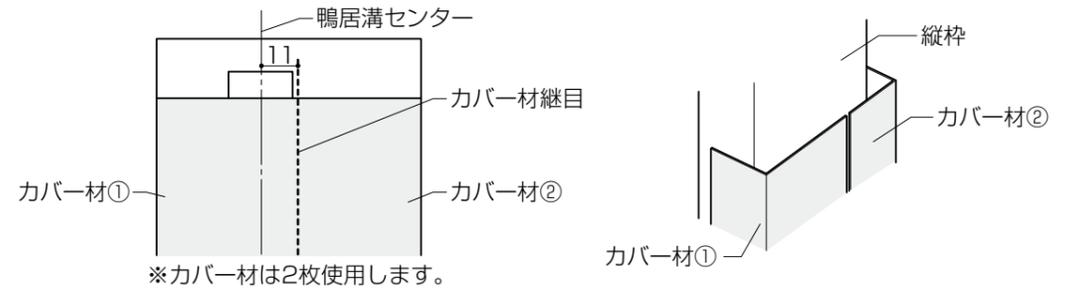
②錠受けを同梱のねじ(皿タップインφ3.5×50)で取付けます。  
ねじ固定位置はφ2で下穴をあけてください。  
※錠受けは枠(またはカバー材)表面より出っ張らないように取付けてください。  
※枠側のパッキン材は錠受けを避けて切断してください。



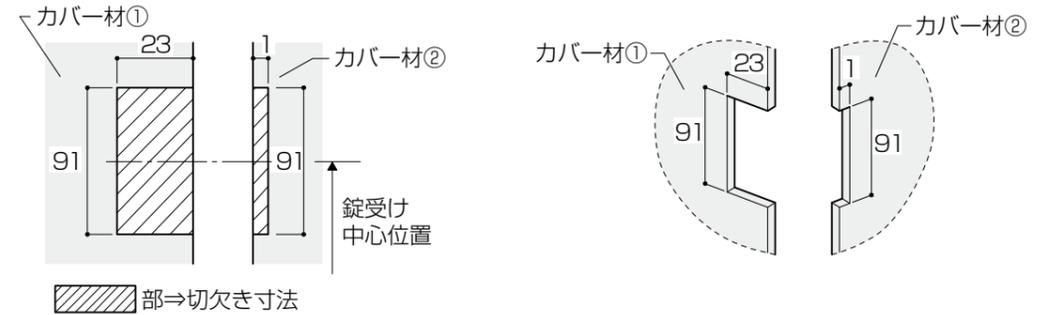
### 【カバー材を使用する場合】

①錠受けの掘り込み加工に合わせて、あらかじめカバー材(2部材)を切欠きます。

●カバー材張付け位置

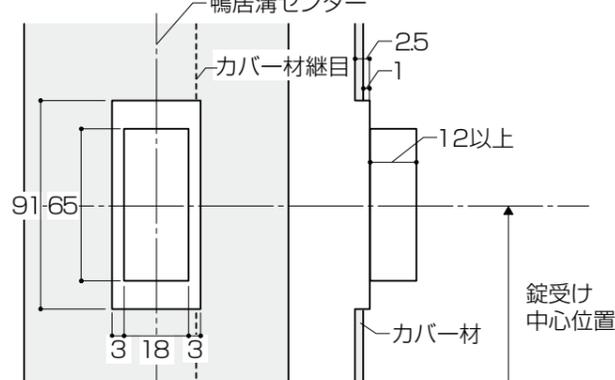


●カバー材切欠き位置・寸法



②カバー材を張付けた後、既存枠に錠受け加工をします。

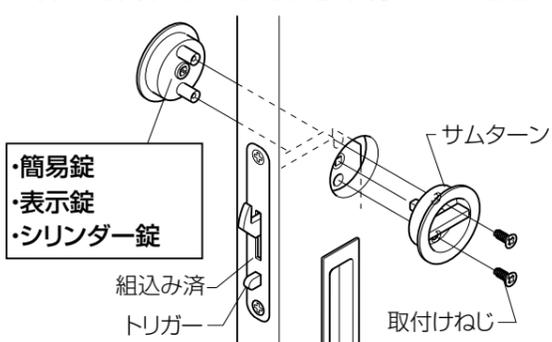
●加工位置・寸法



※以下手順は、左記の【カバー材を使用しない場合】の②参照。

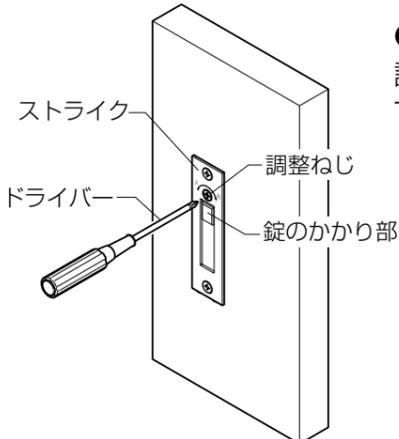
### 【本体錠取付け】

別売りの錠を下図のように組立ててください。  
※取付けねじを締める時に、いったんトリガーを押えて閉状態にしてから取付けてください。

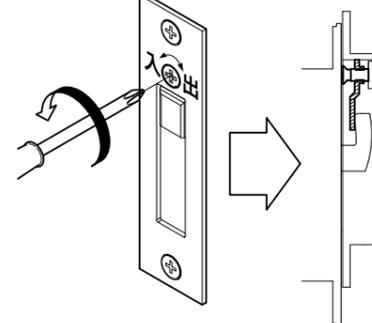


### 【錠受けのかかり調整】

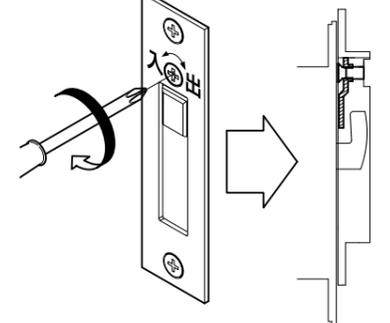
●ストライクの調整ねじを右に回すと錠のかかり部が出て、左に回すと錠のかかり部が奥に入ります。



●本体と枠のすき間が大きい場合  
調整ねじを左に回して調整してください。

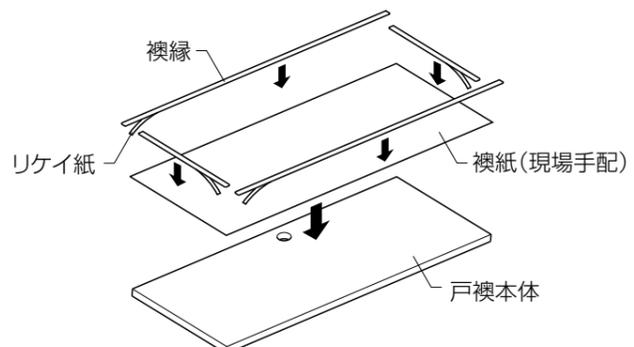


●錠がかかりにくい場合  
調整ねじを右に回して調整してください。



### ■戸襖引戸の現地張り

●生地タイプの戸襖の場合は、現地で襖紙を張ってください。  
①本体の生地面側(白色)に襖紙を澱粉糊(糊付き紙の場合は水)で張ります。  
②襖縁を、本体の寸法に合わせノコギリで切断します。  
③襖縁のリケイ紙をはがし、襖紙の上から圧着してください。  
※襖縁の厚さは2種類あります。厚い方を縦に、薄い方を横に使用してください。  
※現場手配した襖紙を張った場合は、次回の張替え時から上に張増ししてください。



お願い  
●クロス張りにしないでください。ソリが生じます。